

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	國學院大學
設置者名	学校法人國學院大學

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
文学部	日本文学科	夜・通信	22	0	28	50	13		
	中国文学科	夜・通信			12	34	13		
	外国語文化学科	夜・通信			12	34	13		
	史学科	夜・通信			24	46	13		
	哲学科	夜・通信			12	34	13		
法学部	法律学科	夜・通信		0	18	40	13		
経済学部	経済学科	夜・通信		0	10	32	13		
	経済ネットワークキング学科	夜・通信			8	30	13		
	経営学科	夜・通信			16	38	13		
神道文化学部	神道文化学科	夜・通信		0	14	36	13		
人間開発学部	初等教育学科	夜・通信		0	14	36	13		
	健康体育学科	夜・通信			20	42	13		
	子ども支援学科	夜・通信			14	36	13		
観光まちづくり学部	観光まちづくり学科	夜・通信		0	4	26	13		
(備考) 令和2年度より、経済ネットワークキング学科は新規学生募集を停止 令和4年度より、観光まちづくり学部観光まちづくり学科開設									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/timetable

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	國學院大學
設置者名	学校法人國學院大學

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://all-kokugakuin.jp/about/officers/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現民間企業会長	平成31年4月8日～令和5年4月7日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現宗教法人宮司	平成31年4月8日～令和5年4月7日	組織運営体制への チェック機能
(備考) 本法人は、理事16名中6名が学外者の理事で構成されている。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	國學院大學
設置者名	学校法人國學院大學

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>前年度12月下旬から2月上旬を授業計画の入力期間とし、2月中旬から3月上旬の第三者チェック及び修正期間を経て、3月中旬に対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表している。</p> <p>なお、授業計画には、「授業のテーマ、授業の内容、到達目標、授業計画(第1回～15回、事前・事後学習に係る時間と内容)、授業計画の説明、授業時間外の学修方法、受講に関するアドバイス、成績評価の方法・基準、実務経験に関する記載、教科書、参考文献」の事項を、具体的かつ明確に記載している。</p> <p>※すべての学部・学科において同様の取扱いをしている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://ksmapy.kokugakuin.ac.jp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業時における学修意欲や小テストなどの各種評価、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学生の学修成果を判定し、その結果を基準点に換算したうえで成績(S:100～90、A:89～80、B:79～70、C:69～60、D:59～0)を判定している。</p> <p>授業計画に記載された「成績評価の方法・基準」のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、この評価に基づいて単位の授与を行っている。</p> <p>※すべての学部・学科において同様の取扱いをしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生の成績が学生の所属する学部等の中でどの位置にあるかを把握することができるよう、客観的な指標であるGPAを設定し、対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表している。また、学生に対しては、『履修要綱』及びガイダンスを通して十分な周知を図っている。なお、GPAの算出は、各学生の履修科目の成績に基づき、あらかじめ設定した次の算出方法により、適切にGPAを算出している。</p> <p>履修科目の単位数と成績評価ごとに定められたQPI (S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0)を用い、各履修科目の単位数にQPIを乗じたものの合計を、履修科目の単位数の合計で割ることにより算出している。</p> <p>※すべての学部・学科において同様の取扱いをしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p6 『履修要綱』(入学時に配布)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学のディプロマ・ポリシーとして「國學院大學は、(1) 神道精神に基づき、日本理解を深め、(2) 社会で有為な人材となるために必要な知識・技能を獲得し、(3) 現代社会を主体的に生き抜くための思考力・判断力・表現力を持ち、(4) グローバル化する社会で多様な人々とともに協働して学ぶ態度を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。」を定めている。また、各学部・学科においても、大学及び各学部の方針を具体化したディプロマ・ポリシーを定め（以下参照）、大学のディプロマ・ポリシーと併せて、対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表し、学生の修得単位数等を踏まえて卒業を認定している。

[各学部・学科のディプロマ・ポリシー]

● 文学部

文学部は、日本ならびに諸外国の文化を深く理解し、日本文化を世界に発信するための知識と技能を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。

・ 文学部日本文学科

文学部日本文学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 日本の文学・言語・文化について、正確に理解することができる。

(DP-A2) 日本の文化的背景について、基礎的な知識を身につけることができる。

(DP-A3) 日本の文学・言語・文化について、平易に伝えることができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 日本の文学・言語・文化について、研究テーマとなる学修課題を見出すことができる。

(DP-B2) 上記の学修課題について、論理的・分析的に考察することができる。

(DP-B3) 考察した結果について、平易かつ的確に表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 日本の文学・言語・文化についての諸問題に常に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。

(DP-C2) 他者の意見を理解した上で、みずからの見解をまとめることができる。

(DP-C3) 日本の文学・言語・文化についての知識を、他者と共有することができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（文学）の学位を授与します。

・ 文学部中国文学科

文学部中国文学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 中国文学に関する基礎知識および中国古典読解能力を身につけることができる。

(DP-A2) 中国語運用能力を身につけることができる。

(DP-A3) 中国文学に関する情報処理能力を身につけることができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 中国文学について、読解能力・中国語運用能力でもって、共感し理解できる。

(DP-B2) 中国文学及び関連する諸領域の学問に関し思考力を養うことができる。

(DP-B3) 中国文学に関する自らの考えを表現できる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 中国文学・文化を通して他者を理解できる。

(DP-C2) 中国文学及び日本文学を理解し、それらを他者と共有できる。

(DP-C3) 国際的な視点でもって、広く社会に貢献できる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

・文学部外国語文化学科

文学部外国語文化学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 日本語および外国語で伝えられる事柄を、正確に理解することができる。

(DP-A2) 多様な文化的差異を、その歴史や背景とともに理解することができる。

(DP-A3) 日本語および外国語で自分の思いや考えを伝えることができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 日本語および外国語で伝えられる事柄を、共感的・論理的に理解することができる。

(DP-B2) 異文化と言語の学びにより、日本文化の理解を新たにすることができる。

(DP-B3) 日本語および外国語によって、効果的なコミュニケーションを行うことができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 文化的背景の異なる他者に対して配慮することができる。

(DP-C2) 日本文化の理解を深め、それを世界に発信することができる。

(DP-C3) グローバル社会の諸問題に、主体的に関わることができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

・文学部史学科

文学部史学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 歴史を科学的に考えるための知識を有する。

(DP-A2) 史・資料を読み解くための技術や語学力を有する。

(DP-A3) 歴史的遺物から歴史学的考察に必要な情報を取得することができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 史・資料から得られた情報をもとに、歴史的事象を考察することができる。

(DP-B2) 独自性のある意見を、客観的根拠にもとづき、導き出すことができる。

(DP-B3) 学修の成果を個性豊かな文章で発表することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 歴史的諸問題に対し主体的に取り組み、創造性を発揮することができる。
- (DP-C2) 他者に配慮しながら、共同して目標を達成することができる。
- (DP-C3) 他者の意見を取り入れながら、みずからの意見を組み立てることができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

・文学部哲学科

文学部哲学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 哲学（倫理学・美学・芸術学を含む）のさまざまな概念や理論の知識を有し、それらについて説明することができる。

(DP-A2) 哲学（倫理学・美学・芸術学を含む）のテキスト（文献）や芸術作品・資料の内容を的確に読み解くことができる。

(DP-A3) 哲学に隣接する人文・社会科学のさまざまな概念や理論の知識を有し、それらについて説明することができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 哲学（倫理学・美学・芸術学を含む）のさまざまな議論において何が問題になっているかを的確に見出すことができる。

(DP-B2) 上で見出した問題について論理的・分析的に考え、自らの答えを導出することができる。

(DP-B3) 上で導出された自らの答えやその導出の過程を他者にわかりやすく表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 自ら問題を設定し、その問題に対して主体的に取り組むことができる。

(DP-C2) 他者の多様な思考や価値観を理解し、自らの思考や価値観を相対化することができる。

(DP-C3) 他者とともに意見や疑問を提示し合い、協働して答えを探求することができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

●法学部

法学部法律学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

①法律学および政治学に関する知識を修得した上で、その理論を理解し、説明することができる。

<成果目標>

A-1：基本的なアカデミック・スキルを身につける。

A-2：法律学または政治学の基礎的な知識を身につける。

A-3：法律学または政治学に関する主要な理論および概念、ならびに歴史的考察および比較考察等の基本的な分析手法を修得する。

B 思考力・判断力・表現力

②上記の知識および能力を活用して、対立する利益を調整すること、および法的また

は政治的問題を発見し、それらの論理的解決を図ることができる。

<成果目標>

B-1 : 法的または政治的問題について、修得した知識および技能を活用してそれを分析し、解決すべき問題の本質は何かを見いだすことができる。

B-2 : 上で見いだした問題について、論理的に解決を与えることができる。

B-3 : 上で導出した解決策を表明し、他者の説得を試みることができる。

C 主体性を保持しつつ多様な人びとと協働して学ぶ態度

③価値観の多様化する現代社会を多角的に理解することができる。

④社会の構成員であることを自覚し、主体的にそこに参画する意欲をもつことができる。

<成果目標>

C-1 : 常に様々な社会的事象に関心を持ち、それらに関する正確な情報の入手を心がける。

C-2 : 社会的価値の多様性を認識し、自身とは異なる価値観に対して敬意を払うことができる。

C-3 : 異なる価値観の者と協働することによって、問題の解決または利益の調整をはかることができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。

●経済学部

経済学部は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

(DP-A1) 経済学の基礎知識を理解している。

(DP-A2) 日本経済の現状を簡潔に解説できる。

(DP-A3) ICT を活用して適切な情報収集と処理ができる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 質的量的データを用いて考えることができる。

(DP-B2) 信頼できる情報に基づき意見を述べることができる。

(DP-B3) 適切な言葉で表現しコミュニケーションできる。

C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 課題に主体的に取り組む態度をもつ。

(DP-C2) チームで協働的に問題を解決できる。

(DP-C3) 多様な価値観を受け入れることができる。

(DP-C4) 職業人生を主体的に選択し準備することができる。

経済学部は、國學院大學全体の卒業認定・学位授与方針を踏まえ、上記の能力・態度を身につけるために編成された授業科目を履修して所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。

・経済学部経済学科

A 知識・技能

(DP-A1) 経済学の基本的分析ツールを理解し、使うことができる。

(DP-A2) 日本経済の発展過程と現状を理解し、将来展望を簡潔に説明できる。

(DP-A3) 地域や現場の視点から経済・社会問題を分析できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) データの信頼性を的確に判断できる。

(DP-B2) 信頼できるデータに基づき論理的に意見を表現できる。

(DP-B3) 経済学の専門的用語を用いて的確に表現できる。

C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 課題に正面から向き合い、その解決に主体的に取り組むことができる。

(DP-C2) 他者と協調・協働して問題解決を図ることができる。

(DP-C3) 多様な価値観を理解し主体的に協調することができる。

経済学部経済学科は、國學院大學経済学部の卒業認定・学位授与方針を踏まえ、上記の能力・態度を身につけるために編成された授業科目を履修して所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定するとともに、学士（経済学）の学位を授与します。

・経済学部経済ネットワーク学科

A 知識・技能

(DP-A1) 経済活動に伴う社会問題を理解している。

(DP-A2) 経済活動が実践され問題が生起する現場の視点から社会問題を分析できる。

(DP-A3) コンピュータで標準的なアプリケーションを活用できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 信頼できる情報に基づき意見を述べるができる。

(DP-B2) 英語を用いてコミュニケーションをとることができる。

C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 課題に主体的に取り組む態度をもつ。

(DP-C2) チームで協働的に問題を解決できる。

(DP-C3) 多様な価値観を受け入れることができる。

経済学部経済ネットワーク学科は、國學院大學経済学部の卒業認定・学位授与方針を踏まえ、上記の能力・態度を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。

・経済学部経営学科

A 知識・技能

(DP-A1) 経営学と会計学の基本的知識を修得している。

(DP-A2) 経営と会計のデータを収集できる。

(DP-A3) 基本的な会計スキルを身につけている。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 市場を意識して戦略的に思考できる。

(DP-B2) データの信頼性を的確に判断できる。

(DP-B3) 信頼できるデータに基づき論理的に意見を表現することができる。

(DP-B4) 経営学と会計学の専門用語を用いて的確に表現できる。

C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 課題に正面から向き合い、その解決に主体的に取り組むことができる。

(DP-C2) 他者と協調・協働して問題解決を図ることができる。

(DP-C3) 多様な価値観を理解し主体的に協調することができる。

経済学部経営学科は、國學院大學経済学部の卒業認定・学位授与方針を踏まえ、上記の能力・態度を身につけるために編成された授業科目を履修して所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定するとともに、学士（経営学）の学位を授与します。

●神道文化学部

神道文化学部神道文化学科は、学生が学部の専門教育において到達すべき教育目標を以下のように定めます。

A 知識・技能

(DP-A1) 神道を中心とする日本の伝統文化と社会のあり方に関する基礎知識を身につけている。

(DP-A2) 国内外の宗教文化に関する基礎知識を身につけている。

(DP-A3) 神道文化や宗教文化および日本の伝統文化を社会の中で継承・展開するための知識・技能を身につけている。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 神道・宗教に関わる古典や資料の理解にもとづく思考力や判断力を身につけている。

(DP-B2) フィールドワークや実技・実習などによって、現代社会の諸事象を考察し、判断する力を身につけている。

(DP-B3) 神道文化・宗教文化について身につけた知識・技能を文章・言語で表現できる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 神道を中心とする日本の伝統文化を自ら協働して学ぼうとすることができる。

(DP-C2) 国内外の宗教文化について多角的な視点から議論し協調することができる。

(DP-C3) 多様な人々と協力しながら課題解決に取り組むことができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

●人間開発学部

人間開発学部は、以下の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（初等教育学科、子ども支援学科は教育学、健康体育学科は体育学）を授与します。

A 知識・技能

(DP-A1) 建学の精神に基づく日本の伝統文化に関する知識を修得し理解できる。

(DP-A2) 人間開発に関する理論的知識を修得し理解できる。

(DP-A3) 人間開発に関する実践的知識・技能を修得し理解できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 人間開発に関する諸課題を論理的・科学的に考究することができる。

(DP-B2) 教育・指導の場において自ら判断し体系的な実践指導ができる。
(DP-B3) 修得した知識・技能を、口頭、文章、身体、作品などの方法で表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 人間開発に関する課題を探求し、主体的・継続的に学ぼうとすることができる。

(DP-C2) 教育・指導の実践の場において、人間が持つ多様な資質・能力について理解し、尊重することができる。

(DP-C3) 教員や学生、或いは地域社会の人々などと連携・協働し、様々な課題について取り組むことができる。

・人間開発学部初等教育学科

人間開発学部初等教育学科は、以下の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（教育学）を授与します。

A 知識・技能

(DP-A1) 建学の精神に基づく日本の伝統文化に関する知識を修得し理解できる。

(DP-A2) 初等教育に関する理論的知識を修得し理解できる。

(DP-A3) 初等教育に関する実践的知識・技能を修得し理解できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 初等教育に関する諸課題を論理的・科学的に考究することができる。

(DP-B2) 教育・指導の場において自ら判断し体系的な実践指導ができる。

(DP-B3) 修得した知識・技能を、口頭、文章、身体、作品などの方法で表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 初等教育に関する課題を探求し、主体的・継続的に学ぼうとすることができる。

(DP-C2) 教育・指導の実践の場において、人間が持つ多様な資質・能力について理解し、尊重することができる。

(DP-C3) 教員や学生、或いは地域社会の人々などと連携・協働し、様々な課題について取り組むことができる。

・人間開発学部健康体育学科

人間開発学部健康体育学科は、以下の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（体育学）を授与します。

A 知識・技能

(DP-A1) 建学の精神に基づく日本の伝統文化に関する知識を修得し理解できる。

(DP-A2) 体育・スポーツ科学に関する理論的知識を修得し理解できる。

(DP-A3) 体育・スポーツ科学に関する実践的知識・技能を修得し理解できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 体育・スポーツ科学に関する諸課題を論理的・科学的に考究することができる。

(DP-B2) 教育・指導の場において自ら判断し体系的な実践指導ができる。

(DP-B3) 修得した知識・技能を、口頭、文章、身体、作品などの方法で表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 体育・スポーツ科学に関する課題を探究し、主体的・継続的に学ぼうとすることができる。

(DP-C2) 教育・指導の実践の場において、人間が持つ多様な資質・能力について理解し、尊重することができる。

(DP-C3) 教員や学生、或いは地域社会の人々などと連携・協働し、様々な課題について取り組むことができる。

・人間開発学部子ども支援学科

人間開発学部子ども支援学科は、以下の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（教育学）を授与します。

A 知識・技能

(DP-A1) 建学の精神に基づく日本の伝統文化に関する知識を修得し理解できる。

(DP-A2) 幼児教育・保育に関する理論的知識を修得し理解できる。

(DP-A3) 幼児教育・保育に関する実践的知識・技能を修得し理解できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 幼児教育・保育に関する諸課題を論理的・科学的に考究することができる。

(DP-B2) 教育・指導の場において自ら判断し体系的な実践指導ができる。

(DP-B3) 修得した知識・技能を、口頭、文章、身体、作品などの方法で表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

(DP-C1) 幼児教育・保育に関する課題を探究し、主体的・継続的に学ぼうとすることができる。

(DP-C2) 教育・指導の実践の場において、人間が持つ多様な資質・能力について理解し、尊重することができる。

(DP-C3) 教員や学生、或いは地域社会の人々などと連携・協働し、様々な課題について取り組むことができる。

・観光まちづくり学部観光まちづくり学科

A 知識・技能

(DP-A1) 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

(DP-A2) 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

(DP-A3) 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

B 思考力・判断力・表現力

(DP-B1) 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。

(DP-B2) 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにし

<p>て、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。</p> <p>C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>(DP-C1) 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。</p> <p>(DP-C2) 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p5

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	國學院大學
設置者名	学校法人國學院大學

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://all-kokugakuin.jp/about/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://all-kokugakuin.jp/about/financial/
財産目録	https://all-kokugakuin.jp/about/financial/
事業報告書	https://all-kokugakuin.jp/about/business/
監事による監査報告(書)	https://all-kokugakuin.jp/about/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書 対象年度: 令和4年度)
公表方法: https://all-kokugakuin.jp/about/business/
中長期計画(名称:中期5か年計画 対象年度:令和4年度~令和8年度)
公表方法: https://all-kokugakuin.jp/5years/university/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/about/efforts/p12

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/news/10628

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部、経済学部、法学部、神道文化学部、人間開発学部、観光まちづくり学部
教育研究上の目的(公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p1) (概要) 國學院大學は、神道精神に基づき人格を陶冶し、諸学の理論並びに応用を攻究教授し、有用な人材を育成することを教育研究上の目的としている。
卒業の認定に関する方針(公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p5) (概要) 大学のディプロマ・ポリシーとして「國學院大學は、(1) 神道精神に基づき、日本理解を深め、(2) 社会で有為な人材となるために必要な知識・技能を獲得し、(3) 現代社会を主体的に生き抜くための思考力・判断力・表現力を持ち、(4) グローバル化する社会で多様な人々とともに協働して学ぶ態度を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。」を定めている。また、各学部・学科においても、大学及び各学部の方針を具体化したディプロマ・ポリシーを定め、大学のディプロマ・ポリシーと併せて、対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表し、学生の修得単位数等を踏まえて卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p5) (概要) 國學院大學は、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で示した能力と態度を身につけるために、共通教育プログラムおよび専門教育科目から成る教育課程を編成し、それらの系統的な履修によって教育目的を達成する。
入学者の受入れに関する方針(公表方法: https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p5) (概要) 國學院大學では、以下に掲げる姿勢と能力を培い、高めたいと考える学生を多様な入学試験を通じて、積極的に受け入れる。 1. 神道精神と日本文化の理解、継承、発信 ～ もっと日本を。もっと世界へ。～ 國學院大學の教育目的に共感し、日本の文化や歴史を、世界に向けて発信することに意欲がある者。 2. 自分を鍛え、社会へ貢献する姿勢 ～ 「大人」になる～ 自らの個性を発揮し、目標の実現に向けて不断の努力を重ねるとともに、自らの生きる社会に積極的に参加し、その発展に貢献したいという意欲がある者。 3. グローバル社会の中の「共生」 ～ お互いさま、おかげさまの精神～ 地域社会、あるいは国際社会における交流と相互理解に興味・関心を持ち、協調・共生の環境を生み出していく営みに、主体的に関わっていききたいという意欲がある者。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法:<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p2>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	56人	22人	0人	1人	2人	81人
経済学部	—	24人	8人	0人	2人	0人	34人
法学部	—	27人	7人	1人	0人	0人	35人
神道文化学部	—	12人	3人	0人	4人	0人	19人
人間開発学部	—	27人	12人	0人	4人	2人	45人
観光まちづくり学部	—	16人	9人	3人	1人	3人	32人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		629人					630人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kokugakuin.ac.jp/accounts_list					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、平成24年度から「学部FD推進事業」を実施し、これに加え、平成29年度より学部・学科の枠を越えた「グループによるFD推進事業」を実施し、教育・研究の資質向上を図っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	685人	730人	106.6%	2,755人	3,225人	117.1%	若干名	143人
経済学部	510人	544人	106.7%	2,040人	2,208人	108.2%	若干名	61人
法学部	500人	528人	105.6%	2,000人	2,047人	102.4%	若干名	7人
神道文化学部	180人	202人	112.2%	720人	852人	118.3%	若干名	23人
人間開発学部	330人	339人	102.7%	1,320人	1,403人	106.3%	若干名	20人
観光まちづくり学部	300人	301人	100.3%	300人	301人	100.3%	—	—
合計	2,505人	2,644人	105.5%	9,135人	10,036人	109.9%	若干名	254人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	767人 (100%)	50人 (6.5%)	605人 (78.9%)	112人 (14.6%)
経済学部	638人 (100%)	9人 (1.4%)	565人 (88.6%)	64人 (10%)
法学部	580人 (100%)	15人 (2.6%)	476人 (82.1%)	89人 (15.3%)
神道文化学部	184人 (100%)	8人 (4.4%)	145人 (78.8%)	31人 (16.9%)
人間開発学部	340人 (100%)	6人 (1.8%)	321人 (94.4%)	13人 (3.8%)
合計	2,509人 (100%)	88人 (3.5%)	2112人 (84.2%)	309人 (12.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	717人 (100%)	581人 (81.0%)	84人 (11.7%)	52人 (7.3%)	0人 (0%)
法学部	565人 (100%)	504人 (89.2%)	38人 (6.7%)	23人 (4.1%)	0人 (0%)
経済学部	595人 (100%)	525人 (88.2%)	39人 (6.6%)	31人 (5.2%)	0人 (0%)
神道文化学部	192人 (100%)	146人 (76.0%)	31人 (16.1%)	15人 (7.8%)	0人 (0%)
人間開発学部	329人 (100%)	311人 (94.5%)	9人 (2.7%)	9人 (2.7%)	0人 (0%)
合計	2,398人 (100%)	2,067人 (86.2%)	201人 (8.4%)	130人 (5.4%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度12月下旬から2月上旬を授業計画の入力期間とし、2月中旬から3月上旬の第三者チェック及び修正期間を経て、3月中旬に対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表している。</p> <p>なお、授業計画には、「授業のテーマ、授業の内容、到達目標、授業計画(第1回～15回、事前・事後学習に係る時間と内容)、授業計画の説明、授業時間外の学修方法、受講に関するアドバイス、成績評価の方法・基準、実務経験に関する記載、教科書、参考文献」の事項を、具体的かつ明確に記載している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>授業時における学修意欲や小テストなどの各種評価、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学生の学修成果を判定し、その結果を基準点に換算したうえで成績（S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：59～0）を判定している。</p> <p>授業計画に記載された「成績評価の方法・基準」のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、この評価に基づいて単位の授与を行っている。</p> <p>大学のディプロマ・ポリシーとして「國學院大學は、（1）神道精神に基づき、日本理解を深め、（2）社会で有為な人材となるために必要な知識・技能を獲得し、（3）現代社会を主体的に生き抜くための思考力・判断力・表現力を持ち、（4）グローバル化する社会で多様な人々とともに協働して学ぶ態度を身につけた学生に対して、卒業を認定するとともに、学士課程の学位を授与します。」を定めている。また、各学部・学科においても、大学及び各学部の方針を具体化したディプロマ・ポリシーを定め（以下参照）、大学のディプロマ・ポリシーと併せて、対象者を特定せず広く一般にインターネットを通して公表し、学生の修得単位数等を踏まえて卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	中国文学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	外国語文化学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	史学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	哲学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	経済ネットワーク学 科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	経営学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
神道文化学部	神道文化学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
人間開発学部	初等教育学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	健康体育学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
	子ども支援学科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
観光まちづくり学 部	観光まちづくり学 科	124 単位	有	1～3 年次：42 単位 4 年次：48 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p6 『履修要綱』（入学時に配布）		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/p5		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
	中国文学科	760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
	外国語文化学科	760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
	史学科	760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
	哲学科	760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
経済学部		760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費
法学部		760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費
神道文化学部		760,000 円	240,000 円	222,000 円	施設設備費、維持運営費、國學院雑誌代
人間開発学部		800,000 円	240,000 円	260,000 円	施設設備費、維持運営費
観光まちづくり学部		800,000 円	240,000 円	260,000 円	施設設備費、維持運営費

※上図は令和4年度入学者の学費金額。(代理徴収除く)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学修支援センターにおいて、自習、進級、卒業、履修、専門的な資格取得、病気・障がいによる学修相談等、授業や学修に関するさまざまな相談を受け付けている。教職員がアドバイスを行なうだけでなく、必要に応じて大学内の様々な部署と連携し、問題解決を行う。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 低学年次からのキャリア教育により就業観を養い、インターンシップ参加、企業・業界研究などの積極推進・強化により就活力・就職力に結びつけるという形での進路・就職支援活動に取り組んでいる。就職率だけでなく、学部生・大学院生の就活における満足度向上という側面からも、全学就職部委員会、キャリアサポート課、大学院事務課、たまプラーザ事務課、教職センター、神道研修事務課で連携し、学生を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるように、渋谷・たまプラーザの両キャンパスに保健室、学生相談室があり、月曜から土曜まで毎日開室している。保健室では、健康診断や健康に関する相談対応を行っており、内科医2名(週1~3)、管理栄養士(週1)、保健師をスタッフとし食生活や健康管理についての相談に対応している。学生相談室では、様々な学生の相談に応じており、臨床心理士、精神科校医(月2)、弁護士など専門の訓練と経験を積んだスタッフが対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	
学校名	國學院大學
設置者名	佐柳 正三

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		556人	543人	579人
内 訳	第Ⅰ区分	313人	327人	
	第Ⅱ区分	157人	145人	
	第Ⅲ区分	86人	71人	
家計急変による支援対象者（年間）				13人
合計（年間）				592人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	11人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	28人		
計	41人		
(備考) 「『警告』の区分に連続して該当」28人の内、7人は「斟酌すべきやむを得ない事情がある場合の特例措置」を申請中。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	48人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	48人		
(備考) 「GPA等が下位4分の1」48人の内、7人は「斟酌すべきやむを得ない事情がある場合の特例措置」を申請中。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。